

部課名	環境資源部環境政策課
使命	<ul style="list-style-type: none"> ・「水とみどりとにぎわいの調和した環境都市まちだ」を実現するため、環境マスタープランに基づき、市・市民・事業者それぞれの環境施策の推進に取り組みます。 ・持続可能で環境負荷の少ない都市の実現に向け、町田市一般廃棄物資源化基本計画に基づき、ごみの減量・資源化に向けた施策を推進します。 ・町田市環境マネジメントシステム(EMS)に基づき、市役所が事業者として行う環境に関する取り組みを推進します。 ・部内各課が円滑に業務を遂行できるよう、環境資源部のまとめ役として、様々な情報を共有し、各課の調整を行います。

実行計画(年度目標)

順位	取組項目	計画 類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	環境マスタープランアクションプランの進捗管理	個別 計画	4月に策定した後期アクションプランの重点事業進捗確認を行い、施策の着実な推進に向け庁内各課の取り組みを支援します。	①年度目標達成率 ②環境管理委員会開催数 ③環境審議会開催数	①75% ②1回 ③2回	○	環境管理委員会を1回、環境審議会を2回開催し、マスタープラン及びアクションプランの進捗点検を行いました。計画の更なる推進につなげるため、環境管理委員会と環境審議会の回数や開催時期の見直しや、審議会での評価方法の改善を行いました。	進捗点検結果を庁内各課に報告します。また、年度目標達成に向けた進捗状況について、12月に見込みの確認、年度末に実績及び翌年度の取り組み内容の確認を行います。	環境管理委員会と環境審議会の回数や開催時期の見直し、審議会での評価方法の改善を行い、効果的な進捗確認を行うことができました。32事業中、26事業で年度目標を達成することができました。	①81% ②1回 ③2回	C	環境管理委員会、環境審議会の開催時期や評価方法などの改善を行うことができました。また、進捗確認を行い、年度目標を達成することができました。	環境管理委員会、環境審議会の事務局負担を軽減し、スムーズな開催につなげるためのスケジュール調整が必要です。また、審議会の評価結果をより活用する手段を検討する必要があります。
2	一般廃棄物資源化基本計画・実施計画の進捗管理	個別 計画	「廃棄物減量等推進審議会」を開催し、アクションプランの進捗点検を行うとともに、各課の取り組みを支援していきます。	①年度目標達成率 ②廃棄物減量等推進審議会開催数	①80% ②2回	◎	審議会を2回開催し、2017年度の基本計画及びごみ減量アクションプランの進捗点検を実施しました。審議会の意見に対し部内で早期に調整し、目標達成に向けて早い時期から取り組むことができました。	2018年度の年度目標達成に向けた進捗状況について、12月に見込みの確認、年度末に実績及び翌年度の取り組み内容の確認を行います。	審議会を2回開催し、その進捗点検の結果を2018年度の施策に盛り込み、各取り組みを推進しました。17施策中、14施策で年度目標を達成することができました。	①82% ②2回	C	審議会の意見に対し、部内での早期の調整、中間確認を行うことで進捗を確認し、目標を達成することができました。前年度比、2%のごみ量を削減することができました。	進捗確認を随時行い、進捗状況が思わしくない施策については積極的に支援をしていく必要があります。
3	環境情報の発信の充実	個別 計画	環境学習プログラムを取りまとめた一覧を作成します。また、エコキャラクターハスのんや「まちだのエコページ」を有効に活用し、環境情報を分かりやすく発信します。	環境学習一覧の作成	環境学習一覧の完成	◎	環境月間イベントを開催し、約500人の来場者に環境配慮を呼びかけました。また環境資源部のホームページを全面的に見直すため、担当者会議を立ち上げ、改善に着手しました。	担当者会議での検討結果を基に、部のホームページの改善を行います。また、「まちだのエコページ」の改善及び学習一覧の作成・公表を行います。	「まちだのエコページ」を見直し、新たに作成した学習一覧を公開した他、部全体のホームページも改善しました。また、インスタグラムを使用した情報発信の試行を開始しました。	環境学習一覧の完成	B	部全体のホームページの改善や新たにインスタグラムの開設を行うなど、より効果的な市民への情報発信をすることができました。	ホームページは定期的に見直しを行う必要があります。インスタグラムは効果を検証し、今後の展開を検討する必要があります。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
4	町田市環境マネジメントシステムの職員への普及・啓発	個別 計画	庁内職員に対する研修、環境学習の実施やハスのんだよりによる情報提供を行い、環境意識の向上を図ります。	①ハスのんだ より発行回数 ②e-ラーニン グ実施回数 ③職員研修回 数	①3回 ②2回 ③9回	◎	ハスのんだよりを6月に1回発行し、グリーン購入の解説等を行いました。e-ラーニングを7月に1回実施しました。職員研修を9回実施し、新たに新入職員を対象に講義を行いました。欠席者に対しては、代理や振り替えができないか積極的に調整しました。これにより出席率を前年度の92.2%から95.3%に向上させることができました。	ハスのんだよりを2回発行します。e-ラーニングを1回実施します。	ハスのんだよりを3回発行し、グリーン購入、法令遵守などの内容を充実させたことで、複数の施設から改善行動に移せたと報告を受けました。e-ラーニングを2回実施しました。職員研修を9回実施し、新たに新入職員を対象とした講義や環境法令の講義を取り入れました。また、欠席者が出ないよう積極的な調整を行うことにより、研修受講率を向上させることができました。全庁の職員が共通して参照する職員ハンドブックに、「環境」の章を新たに追加しました。	①3回 ②2回 ③9回	B	新人職員向けに新たに研修を実施しました。また、環境法令を講義に取り入れ、ハスのんだよりにも掲載するなど、職員への環境法令遵守の働きかけを進めることができました。また、研修受講率の向上や職員ハンドブックへの掲載など、目標には掲げていない取組を新たに行うことで、更なる職員への意識向上を図ることができました。	e-ラーニングの提供時期については、職員の実施率がさらに高まるよう見直すことが必要です。市の各施設において、環境法令遵守がより徹底されるよう、仕組みを構築する必要があります。
5	第4次環境配慮行動計画の全体目標達成の支援	個別 計画	省エネ対策会議を開催し、温室効果ガス排出抑制の方針検討を行います。また、市の所管する施設にて省エネ診断を行い、エネルギー使用状況を分析することで、エネルギー使用の適正化と使用量削減を図ります。	①省エネ対策 会議開催数 ②省エネ診断 の実施	①3回 ②実施	○	省エネ対策会議を6月に1回開催しました。2017年度実績を踏まえた2019年度までの温室効果ガス排出量及びエネルギー使用量の目標設定を行いました。省エネ診断を、南市民センター・総合体育館・町田第二中学校の3施設で着手しました。	省エネ対策会議を2回開催します。省エネ診断終了後に、それぞれ報告会を実施します。	省エネ対策会議を3回開催し、省エネ診断の報告や、2019年度までの温室効果ガス排出量及びエネルギー使用量の目標設定を行いました。省エネ診断においては、3施設での診断を完了し、それぞれで報告会を実施しました。診断の結果得られた改善提案により、将来の改修時に向けた取り組みの検討につなげることができました。	①3回 ②完了	C	省エネ診断の実施により、施設のエネルギー削減方法と効果を提示できました。また、報告会には、診断施設以外の関連施設職員や指定管理業者、営繕部門職員が参加しました。これにより、庁内の施設所管部署に対する意識づけを行うことができました。また、環境に配慮した施設の運用改善及び改修に向けた、営繕部門等との協力体制構築を新たに進める契機となりました。	省エネ診断の改善提案「排出係数を考慮した電力契約」について、今後市全体での取り組みを検討していきます。

順位	年度目標設定				中間確認			年度末確認					
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
6	災害廃棄物処理計画の策定	—	非常災害時、災害廃棄物を適切に処理するため、災害廃棄物処理計画を策定します。	災害廃棄物処理計画の策定	計画策定	○	関係各課が締結している災害時の協定、仮置場候補地等について整理し、計画策定に向けた検討を進めました。	引き続き、関係各課との調整等を行います、計画を策定します。	他自治体の計画の研究、関係各課との調整を行い、災害廃棄物処理計画を策定しました。被災地へ職員を派遣し、仮置場の設置、管理、運営をはじめとした現地での課題の吸収を行いました。	策定完了	C	部内及び庁内関係課との調整を行い、予定通り計画を策定することができました。派遣先で業務に携わることにより被災地をとりまく災害廃棄物処理の課題を発見できました。また、その課題を踏まえて、計画に反映することができました。	計画策定後もより実効性を高めるため、定期的に見直していく必要があります。被災地での経験を活かして今後マニュアルを策定する必要があります。
7	情報共有及び業務知識の習得	—	業務量の平準化に向け、業務内容や進捗状況を課内で共有できるよう、定期的に課内会議を行い、必要に応じて業務分担を見直します。また、課内勉強会及び部への異動者・新人を対象とした部内研修会を企画・実施します。	①課内会議の実施回数 ②勉強会等の開催数	①4回 ②2回	○	課内会議を2回行い、知識向上、情報の共有を図りました。また、部内研修会を実施しました。	引き続き、課内会議を行います。また、外部講師による勉強会を予定しています。	知識向上、情報の共有を図るため、課内会議を4回、課内勉強会、部内研修会を各1回実施しました。課内勉強会は「地球温暖化」をテーマに講演会を開催し、庁内全体から、環境資源部を含めた12部25課63人の参加がありました。講演会資料は、全庁掲示板等、庁内で共有することで、講演会に参加できなかった職員にも啓発を図りました。	①4回 ②2回	B	予定していた回数を実施し、情報の共有、知識の取得に取り組みました。また、課内勉強会では課内だけでなく庁内全体で環境意識の向上を図ることができ、実施後のアンケートでも約9割の職員から「今後の業務に活かせる」との回答がありました。	季節的に事務量の偏っている業務について、繁忙期の進捗状況を共有し、更なる平準化を図る必要があります。

部課名		環境資源部環境・自然共生課											
使命		市民や事業者とともに、地球温暖化防止や生物多様性保全に取り組み、その意識を高めていきます。											
実行計画(年度目標)													
順位	取組項目	計画 類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	水素エネルギーの利用促進	重点 事業 プラン	① 市内に1ヶ所、水素ステーションの誘致を行います。 ② 燃料電池自動車等を活用したイベントや講演会等の開催をし、水素エネルギーに関する普及啓発を推進していきます。	① 市内における水素ステーション設置数 ② 水素関連のイベントに参加した市民の数	① 1ヶ所 ② 600人	○	① 幹線道路沿いを中心に適地を選定しています。 ② 合計5回の普及啓発イベントに339人が参加しました。	① 適地を選定し、設置に向けた準備を予定しています。 ② 5～6回のイベント出展を予定しています。	① 市内数カ所の誘致候補地を検討したものの決定には至りませんでした。引き続き誘致の検討を進めていきます。 ② 前半期の活動に加え、燃料電池自動車の展示について相原ふれあいフェスティバル、藤の台小学校、南大谷小学校、ゆくのき学園での出前授業など、合計11回の普及啓発イベントを行いました。	① 誘致場所未定 ② 1012人(延べ)	D	誘致決定には至りませんが、イベント参加人数が、年間通じて目標を大きく上回る実績となりました。また、出前授業後には、水素エネルギーについて理解が深まったという感想文が寄せられました。	① 誘致については、他部署や地元の事業者等と連携し、更に東京都とも情報収集の強化を図りながら、誘致候補地の検討を行います。 ② 水素エネルギー普及活動について、市民によりわかりやすい啓発方法などを検討していきます。
2	地球温暖化対策取り組み促進	個別 計画	市民がCO2削減活動を宣言し、生活の中で削減活動を行う「わたしのエコ宣言」を促進します。 緑のカーテンイベント、環境月間イベント、エコフェスタなどの催しや、町内会・自治会、子ども会など、広く市民に呼びかけます。	「わたしのエコ宣言」参加者数	2,000人	◎	緑のカーテンイベントや子どもセンターイベントなど通じて、「わたしのエコ宣言」を促進しました。8月26日現在の参加者は2,665人となっています。	引き続き関連課を含めた環境イベント等で「わたしのエコ宣言」を促進します。	緑のカーテンイベントやさんあーる広場inシバヒロイベントなどに出展することにより、多くの市民に賛同いただき、参加者は2,750人となりました。また町内会自治会の掲示板に「わたしのエコ宣言」チラシを掲示し、広く参加を呼びかけました。	2,750人	B	参加目標人数を十分に達成することができました。	今後、より参加しやすい取り組みや、小中学校に呼びかけるなど、参加者増に向け、仕組みを発展させていきます。
3	市民協働による生きもの調査や市民による情報提供を活用した市内の生きもの情報の収集	重点 事業 プラン	セミの鳴き声調査や水辺の生きもの調査、市民による情報提供など、市内の生きもの情報を収集して、生物多様性情報拠点機能で公開するデータの一部とします。	情報報告件数	630件	○	市民による情報提供は、8月末時点で205件となっています。また、セミの鳴き声調査を7月から実施しています。	セミの鳴き声調査を10月15日まで行い、水辺の生きもの調査を11月に実施予定です。市民協働による生きもの調査の結果を12月までに公表します。市民からの情報収集を継続します。	セミの鳴き声調査242件、水辺の生きもの調査23件、市民による情報提供365件となっています。また、生きもの調査結果を公表し、市民から提供されたアライグマ・ハクビシンの情報をまとめ、周知しました。さらに、新たな情報収集方法として、アプリを活用した市民投稿の受付を開始しました。	630件	C	既存事業に加え、アプリを活用した情報収集を開始したことにより、市民がより気軽に生きもの情報を報告できるようになりました。	アプリを活用した情報収集を継続して行い、全市的な生物の分布を把握するとともに、収集した情報を活用していく必要があります。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
4	外来生物対策	個別 計画	建物等に住み着いている場合、所有者からの依頼により、アライグマ・ハクビシンの駆除を行います。	外来生物の駆除の実施	実施	○	アライグマ・ハクビシン防除事業を6月から開始しました。8月末までで、3頭を駆除しました。	引き続き事業を実施します。	アライグマ・ハクビシン防除事業を新規に開始しました。市民からの申請に基づき、70回現地調査を実施し、アライグマ5頭、ハクビシン1頭の合計6頭を駆除しました。	実施	C	事業を新規に開始し、6頭の駆除につながりました。	アライグマ・ハクビシンの目撃情報が多く寄せられているため、事業を継続していきます。
5	業務の効率化	—	課内会議を実施し、職員間での情報を共有することで、業務改善の方法を検討します。また、市民からの問合せに対応する事業毎のQ&A作成を行い、業務の効率化を図っていきます。	①課内会議実施回数 ②事業毎Q&Aの作成	①12回/年 ②作成	○	①6回実施しました。 ②作成したQ&Aを課内の掲示板に掲載し、情報共有を図りました。	引き続き、業務の効率化を図っていきます。	①課内会議を12回実施しました。 ②事業毎に定期的な会議を行い、情報共有を密にしました。また、ライトダウンや外来種に関する市民からの問い合わせに迅速に対応できるように、対応マニュアルを作成し、課内で統一化を図りました。	①12回/年 ②作成	B	課内会議の月1回実施や対応マニュアルの作成など、情報共有を図り、目標を達成しました。特に、外来種防除事業では課内全員で外来種に関する講習や防除現場に同行するなど、新規事業を円滑に進めるために課一丸となり取り組みました。	業務内容をさらに検証し、改良点を踏まえ事業の効率化を図っていきます。

部課名		環境資源部環境保全課											
使命		公害発生の未然防止、問題の原因者への改善指導、市民や事業者への意識啓発を通じ、市民の身近な環境に関する問題を低減し、環境保全のためのルールが守られた清潔、安全、快適なまちをつくりま す。											
実行計画(年度目標)													
順位	取組項目	計画 類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	地域美化の推進	個別 計画	ポイ捨て・路上喫煙の抑制、美化活動の周知・促進のためにイベントへの参加や市内各駅周辺での啓発活動を実施します。また、市内各駅周辺の地域美化の状況や、他市の調査結果を踏まえて美化推進指導員の巡回方法など、指定区域の運用等の見直しを委託化を含め検討します。	啓発活動の実 施回数	14回	○	<ul style="list-style-type: none"> 指定区域(町田・鶴川・成瀬)の駅で各2回、多摩境駅で1回、計7回啓発活動を実施しました。 小田急町田駅西口喫煙所及び鶴川駅北口西側喫煙所の環境改善を実施しました。 委託化を想定し、美化推進指導員の巡回時間・内容を検討しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 指定区域(町田・鶴川・成瀬)の駅で各2回、区域外の駅で1回、計7回啓発活動を予定しています。 各駅指定喫煙所の環境改善を検討して行きます。 美化推進指導員の巡回方法について引き続き検討を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 指定区域(町田・鶴川・成瀬)の駅で各4回、多摩境駅で1回、玉川学園前駅で1回計14回啓発活動を実施しました。 指定喫煙所の環境改善を上半期2ヶ所、下半期3ヶ所、計5ヶ所実施しました。(町田区域2ヶ所、鶴川区域2ヶ所、成瀬区域1ヶ所) 委託化を想定し、美化推進指導員の巡回時間・内容を検討しました。 	14回	B	<p>年間目標値である14回の啓発活動を実施しました。</p> <p>指定喫煙所の環境改善を5ヶ所実施しました。(鶴川1ヶ所はパーテーションを新たに設置。他4ヶ所は既存のパーテーションの高さを増し、ルーバーを設置することにより煙の流出量を削減。)</p>	環境美化のマナー向上を効果的に進めるため啓発活動の継続が必要です。指定区域の環境改善が必要なため未改修の指定喫煙所について対応を検討します。
2	有害物質取扱事業場等への継続的監視・指導	個別 計画	有害物質取扱事業場に対する昨年度の立入結果を踏まえ、指導計画を立案実施することで、さらなる監視・指導の充実を図ります。	立入指導件数	20事業場 (1事業場あたり複数回訪問、合計概ね60件)	○	<p>昨年度までの立入指導結果を踏まえ、6月に指導計画を立案しました。計画に基づき、10事業場に対し立ち入り指導を実施しました。</p>	<p>10事業場に対し立入、指導を行います。</p>	<p>立入計画及び事業者からの届出書に基づき、20事業場に対し立入し、施設の構造基準や使用方法及び定期点検の実施に関して指導しました。また、必要な届出が提出されていない事業場に対して届出指導を行い、提出を促しました。</p>	20事業場 (合計60件)	C	<p>計画通り20事業場に立入指導を実施し、有害物質の適正使用を促しました。</p>	有害物質の使用に関し、適切に行われているか継続的に指導・監視をする必要があります。

順位	年度目標設定				中間確認			年度末確認					
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
3	職員のスキルの向上と 情報共有の推進	個別 計画	年度当初に職員を講師とする職場 研修を含めた実施計画をつくり、 推進します。 全体的な職員スキルや知識を向 上させ平準化もすることで、業務の 効率化を図ります。	職場研修回数	4回	○	職員を講師とし た、行旅死亡人 (※)に関する研修 及び事業場実態 調査に関する研修 を行いました。 ※行旅死亡人:住 所(居所)及び氏 名の両方またはい ずれかが不詳で、 かつ、引取者がい ない 死体	土壌汚染対策とダ イオキシンのついで、研修を行う予 定です。	職場内研修を計4回 (中間確認時に引き続 き、土壌汚染対策、ダ イオキシンのついで) 開催し、業務知識の理 解と共有化が進まし た。また講師を職員が 行うことで、その職員 の専門知識の深化、ス キルアップにもつな がりました。	4回	C	計画通り職場 内研修を4回 実施し、職員 の知識の深化 と共有が進み ました。	時代のニーズ に合わせた内 容の研修を実 施することで、 知識の共有、 深化を引き続 き図る必要が あります。
4	人材育成の推進	—	「環境保全課 職員育成方針」を 踏まえた、所属職員の「育成プロ セス」を実施します。	「育成プロセ ス」の実施	実施	○	新入職員に職員ス キルや知識の向上 が図れるよう、育成 プロセスを提示し ました。	業務知識や能力 などの職員スキル の習得状況を確認 し、「育成プロセ ス」を見直します。	新入職員に職場研修 (係内、部内)や都市 公害連絡協議会講習 などを受講させるこ とにより、環境保全課職員 として、環境業務ス キルの向上をめざし ました。	実施	C	育成対象とし た新入職員へ の育成プロセ スを実施しまし た。	育成プロセス の実施には職 場の良好な チームワーク が必要です。

部課名		環境資源部循環型施設整備課											
使命		町田市資源循環型施設整備基本計画(2013年4月策定)に基づき、循環型社会の構築を目指し、市民との協働で環境負荷の少ない、周辺地域に配慮した資源循環型施設整備を進めます。											
実行計画(年度目標)													
順位	取組項目	計画 類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	町田リサイクル文化センター敷地内における熱回収施設等(焼却施設、不燃・粗大ごみ処理施設、バイオガス化施設)の稼働	重点 事業 プラン	市民との協働で、環境負荷の少ない周辺地域に配慮した熱回収施設等の整備を進めます。 ①実施設計及び解体工事、造成工事を完了します。 ②建設工事に着手します。 ③環境影響評価書に基づく事後調査を実施します。	①実施設計(建築・プラント)、旧管理棟解体工事、造成工事 ②建設工事 ③環境調査	①完了 ②着手 ③実施	○	①8月に実施設計及び旧管理棟解体工事を完了しました。 ②8月に建設工事に着手しました。 ③4月に契約締結し、動植物・猛禽類の調査を実施しました。	①造成工事は、2018年度内に完了予定です。 ②引き続き、建設工事を実施します。 ③引き続き、動植物、大気、騒音、振動の調査を実施します。	①建築・プラント等の実施設計及び旧管理棟の解体工事、造成工事を完了しました。 ②8月から建設工事に着手し、杭工事を完了しました。 ③環境影響評価書に基づく事後調査等を実施しました。	①完了 ②着手 ③実施	C	実施設計や解体・造成工事、建設工事、環境調査について、目標を達成することができました。	・引き続き周辺環境への配慮や工事の情報周知に努め、安全で安心な施設整備工事を進めます。 ・事業スケジュールに合わせた工事の適正な進捗管理を行います。
2	相原地区における資源ごみ処理施設の稼働	重点 事業 プラン	・市民との協働で、環境負荷の少ない周辺地域に配慮した資源ごみ処理施設計画等の検討を進めます。 ・建設地の関係者との調整を図り、調査測量業務を行います。	建設地における調査測量業務	実施	○	2017年度末に施設稼働目標年度を2025年度に修正し、公表しました。併せて施設建設予定地周辺住民を対象に説明会を開催しました。 9月に調査測量業務着手しました。	調査測量業務を実施します。	施設稼働目標年度の変更について、施設建設予定地周辺住民に説明会を実施しました。また、調査測量業務を実施し一部完了しました。	一部実施	D	調査測量業務の一部が完了しました。	・調査測量に向けて、引き続き調整を進めます。 ・施設整備に向けて調整や手続きを進めます。
3	上小山田地区における資源ごみ処理施設の稼働	重点 事業 プラン	・市民との協働で、環境負荷の少ない周辺地域に配慮した資源ごみ処理施設計画等の検討を進めます。 ・関連事業と連携し、建設地の関係者との調整を図り、調査測量業務を行います。	建設地における調査測量業務	実施	△	2017年度末に施設稼働目標年度を2027年度に修正し、公表しました。併せて施設建設予定地周辺住民を対象に説明会を開催しました。 調査測量業務は未実施です。	調査測量業務実施に向けて、関係部署との協議・調整を行います。	施設稼働目標年度の変更について、施設建設予定地周辺住民に説明会を実施しました。調査測量業務実施に向けて、関係部署との協議・調整を行いました。	未実施	D	調査測量業務が実施できませんでした	・関係部署と情報共有や連携し、関係者との調整を図りながら、調査測量を実施します。 ・施設整備に向けて、調整や手続きを進めます。

順位	年度目標設定				中間確認			年度末確認					
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
4	事業の進捗状況の情報提供	—	<ul style="list-style-type: none"> ・熱回収施設等の工事の進捗状況をホームページや広報紙にて情報提供するとともに、工事説明会を実施します。 ・資源ごみ処理施設に関し情報提供を行います。 	ごみ資源化施設建設NEWSの発行回数	3回	○	<p>ホームページや建設NEWS等で工事の進捗状況を発信するとともに、ホームページのレイアウト等見直しを検討しました。</p> <p>建設NEWSニユvol.23を、8月1日に発行しました。</p>	建設NEWS ニユ vol.24及び25を発行予定です。	<ul style="list-style-type: none"> ・工事状況について空撮映像や画像をホームページに載せて、分かりやすく情報提供しました。 ・建設工事着工にあたり、周辺住民に工事説明会を4回実施しました。 ・工事の進捗にあわせ、杭の記念ペイント、重機の試乗やVR（バーチャルリアリティ）で完成した建物を体験頂き、周辺住民に工事を身近に感じられる見学会を開催しました。 ・広報紙を3回発行し、工事状況や環境保全対策について情報提供を行いました。特に、vol.25は「伝わる日本語推進運動」の活動結果を踏まえ、よりわかりやすい文章に見直しました。 	3回	B	<p>ごみ資源化施設建設NEWSを予定通り3回発行し、伝わる日本語推進運動の活動により、高品質な内容にすることができました。工事説明会4回開催に加え、事業の進捗状況を体感できる工事見学会を企画し、実施しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会や見学会の際に市民への分かりやすい説明を心掛け、理解を深めてもらうよう努めていきます。
5	地区連絡会や住民説明会等の各地区共通の業務及び文書管理におけるマニュアルの策定と運用	—	<ul style="list-style-type: none"> ・業務マニュアル及び文書管理におけるマニュアルを策定し、運用します。 ・課内で情報共有し業務の効率化を図ります。 	マニュアルを用いた業務実施	マニュアルの運用	○	業務マニュアルの仮運用を開始しました。	業務マニュアルを適宜修正し、共有して運用します。	<ul style="list-style-type: none"> ・手続きや広報等の締切、準備物の漏れがないうような業務マニュアルを活用しました。 ・文書管理におけるマニュアルを策定し、運用を開始しました。 	マニュアルを運用して業務を実施	C	業務マニュアルを用いて地区連絡会を5回開催しました。	<ul style="list-style-type: none"> ・書式や締切等を見直すと共に、課内で情報共有をさらに深めます。

部課名	環境資源部資源循環課
使命	町田市内で発生する一般廃棄物の中間処理施設である清掃工場は、1982年から稼働しており、現在新たな熱回収施設等の建設が進んでいます。このため、職員の意識改革や他市先行事例等の情報収集を行い、新施設の稼働まで計画的な維持管理体制を構築し、老朽化した清掃工場を安定稼働させるとともに、処理量削減に向けた搬入ごみからの資源化を職員の創意工夫で進めています。また、当課で所管する剪定枝資源化センター、リレーセンターみなみ、境川クリーンセンター、最終処分場、排水浄化センター等の施設も安全で効率的な管理運営を徹底していきます。

実行計画(年度目標)

順位	取組項目	計画 類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や 成果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	計画的な修繕工事の実施による施設の安定稼働	—	<ul style="list-style-type: none"> 2018年度清掃工場及び所管施設修繕工事計画に基づく修繕工事を実施します。 設備の損耗状況等を精査し、2019年度の計画を策定します。 	各施設機器の故障停止発生率	5%以下	○	<ul style="list-style-type: none"> 修繕工事計画に基づき、修繕工事を実施しました。契約進捗率は55%です。 機器の故障停止発生率は5%以下を維持しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 修繕工事計画に基づき修繕工事を行います。 2019年度の修繕工事計画を策定します。 	<ul style="list-style-type: none"> 修繕工事計画に基づき、11月までに契約を締結し、修繕工事を実施しました。 2019年度の修繕工事計画を策定しました。 	0%～1.55%	C	老朽化が進行する現有施設において、目標値である5%以下を達成しました。	2021年度の新熱回収施設稼働に向け、修繕工事計画を基に現有施設の安定稼働ならびに延命化に努めていきます。
2	清掃工場内の安全管理	—	<ul style="list-style-type: none"> 清掃工場内のゼロ災害を目指し、安全意識向上の啓発を行います。 大規模災害等を想定した防災訓練を実施します。 	啓発、防災訓練実施回数	4回以上	○	<ul style="list-style-type: none"> 全国交通安全運動等の啓発を3回、プラント緊急停止訓練を1回、また、熱中症予防対策等を行い、ゼロ災害が達成されています。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国交通安全運動の啓発、プラント緊急停止訓練及び防災訓練を行い、引き続きゼロ災害を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 春と秋の全国交通安全運動及び全国安全週間にはポスター掲示・のぼり旗の設置を行い、啓発に努めました。 朝礼時に危険予知訓練(KYT)標語を呼称することで安全意識の向上を図りました。 5月と12月にプラント緊急停止伝達訓練を行いました。 2月には粗大設備火災訓練及び仮設管理棟消防訓練を実施しました。 	9回	C	<ul style="list-style-type: none"> 清掃工場内のゼロ災害が達成されました。 	それぞれの目標が達成できましたが、今後も安全意識を高め、引き続きゼロ災害を目指します。
3	許可業者や排出事業者等への指導啓発及びごみ搬入に関する周知活動	個別 計画	<ul style="list-style-type: none"> 搬入物検査で不適物を発見した場合に事業者に対し、注意書等を発行し事後の適正処理報告を求めていきます。 許可業者や排出事業者への指導啓発や適正搬入に向けた情報提供を実施します。 許可業者向けの説明会を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者指導啓発件数 説明会実施回数 	<ul style="list-style-type: none"> ①50件以上 ②1回以上 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 8月末までに搬入物検査76件、注意書発行40件、事業者訪問指導36件を実施し、指導啓発、情報提供を行いました。 家庭系臨時ごみの許可範囲変更申請手続きについての説明会を開催しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して事業者への指導及び内容物検査を実施し、適正搬入への指導啓発を行います。 許可業者からの調査回答を集計し、2月の許可業者説明会に向けて準備を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 搬入物検査200件を実施し、不適物を確認した100件に対し注意書を発行しました。そのうち事後処理終了の報告を50件受理しました。あわせて事業者への訪問指導を50件実施。年間を通して指導啓発、情報提供を行った結果、搬入不適物が徐々に減り効果が現れ始めています。 2月に許可業者説明会を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ①50件 ②2回 	C	<ul style="list-style-type: none"> 継続した指導等により、不適物の混入が徐々に減ってきています。 2月の説明会の中で学識経験者による講演を実施しました。 	徐々に効果が現れ始めていることから、今後も継続して指導等を行います。また、説明会での啓発を続けます。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や 成果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
4	時間外勤務の削減	—	・定時退庁の徹底に努めます。 ・業務分担の平準化、業務手順の見直しや会議時間の短縮に努めます。	時間外勤務 時間数	前年度比5%減	◎	係間の連携協力、定時退庁の声掛け及び会議手法の見直し等で、4～9月は前年度比で約10%削減しました。	定時退庁の励行や業務手順の見直し等を更に進めていきます。	定時退庁日に時間外勤務を行わないよう徹底しました。 会議手法の見直しや係間の協力による業務の効率化で時間外勤務の削減に努めました。	前年度比 15%減	B	目標値を上回ることができました。	次年度も業務の効率化を進めます。
5	新たな熱回収施設の稼働に伴う職員体制の見直し	行政 経営 改革 プラン	・新施設稼働後の職員体制案を策定します。 ・新施設稼働後の業務マニュアル案の調査検討を行います。	①新施設稼働後の職員体制 ②新施設稼働後の業務マニュアル	①職員体制案の策定 ②業務マニュアル案の調査検討	△	・施設運営業務を行う予定のSPCが設立されておらず、業務範囲が明確にできない状況です。 ・先行する他市への視察や、聞き取りを行っており、収集した情報を基に、新施設稼働後の職員体制等を検討しています。 ※【SPC】特定目的会社の略	①資源循環課あり方検討会を開催し、新施設稼働後の職員体制の策定に向け、継続して検討していきます。 ②マニュアルについても同様に継続して検討していきます。	①資源循環課あり方検討会において、2022年度業務・職員体制案について策定しました。 ②業務マニュアル策定に向けて先行施設への視察を行い、稼働後の問題・課題等について情報収集を行いました。	①職員体制案の策定 ②業務マニュアル案の検討	C	新施設稼働後の業務、職員体制案を策定しました。マニュアルについては、先行施設を参考に検討中です。	今後はSPCと協議を重ね、新施設稼働に向け職員体制やマニュアルの策定を行います。
6	広報やイベント参加等での情報発信	—	・広報やイベント参加等により当課業務の情報発信に努めます。 ・ホームページの充実を図ります。 ・近隣住民に、清掃工場に関わる情報を提供します。	①ホームページ更新 ②イベント参加 ③近隣への環境資源部ネットワーク通信発行	①15回以上 ②4回以上 ③1回以上	◎	①ホームページの更新を21回行いました。 ②環境月間等イベントに4回参加しました。	引き続きホームページ更新、エコフェスタ等参加、また、環境資源部ネットワーク通信発行を行い、当課業務の情報発信に努めます。	・ECOまちだへ清掃工場のエネルギー有効活用について記事掲載しました。またイベントへの参加、施設見学対応及びホームページの適宜更新を行い、情報発信に努めました。 ・広報紙等への情報掲載により、粗大ごみの予約制について周知しました。	①27回 ②7回 ③1回	C	目標値以上の情報発信を行いました。(結果の一例として、市民の粗大ごみ持込みの予約率は約90%に増えています)	次年度も、広報紙やイベント参加、施設見学対応等により常に新しい当課業務の情報発信を行います。

部課名		環境資源部3R推進課											
使命		収集業務や啓発業務を通じて、わかりやすく情報を伝え、町田市内に3R(リデュース:ごみそのものを減らす、リユース:繰り返し大切に使う、リサイクル:分別して資源にする)意識を広め、市民・市民団体・事業者とともに、誰もが3Rにつながる仕組みに参加でき、それぞれの役割を果たせるまちを目指します。											
実行計画(年度目標)													
順位	取組項目	計画 類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	南地区での容器包装プラスチックごみの分別協力率並びに排出量の向上	個別 計画	容器包装プラスチックの分別排出方法を周知する活動を行います。	周知活動の実施	3回	○	・8月に金森地域で行った出前講座の中で、プラスチックの分別排出方法について説明しました。	・10月に早朝キャンペーンを実施する予定です。 ・排出ルールが徹底されない地区をターゲットに、2月頃、周知活動を行う予定です。	容器包装プラスチックの分別排出について、出前講座の中での啓発を1回、地域のイベントに出展しての周知を1回、早朝キャンペーンを2回行いました。	4回	C	複数のターゲットに対して、当初の予定よりも1回多く周知活動を実施しました。	分別協力率、排出量の向上に向けて、今後も様々な場面で地道な活動を継続していきます。
2	事業系ごみの訪問指導と減量の推進	個別 計画	・中規模事業所の実態を調査し、減量策を検討します。 ・少量排出事業者の登録更新作業の進め方について検討します。 ・大規模事業所の訪問指導を行います。	・中規模事業所における減量策 ・登録更新作業の具体的な方法 ・訪問事業所数	・減量策の作成 ・登録更新作業の骨子決定 ・50件	○	・事業系一般廃棄物の調査業務について、資源循環課・環境政策課とともに、委託業者との打ち合わせを行いました。 ・少量排出事業者担当者会議の中で、登録更新のあり方について話し合いを持ちました(検討中)。 ・9月10日時点で31件の大規模事業所に対し、定期的訪問指導を行いました。 ・策定した制度に基づき審査、賞状贈呈、受賞のPR等を行います。	・引き続き、事業系一般廃棄物の調査業務に関することで、中規模事業所の減量策を考えていきます。 ・引き続き、登録更新のあり方および具体的な方法について担当者会議で検討します。 ・スケジュールに沿って、大規模事業所の定期的訪問指導を行います。 ・策定した制度に基づき審査、賞状贈呈、受賞のPR等を行います。	・事業系一般廃棄物の組成調査の結果から、中規模事業所の減量策を検討しました。 ・登録更新方法を検討し、登録済みの少量排出事業者の登録実態を把握する調査を3年かけて実施することとしました。 ・大規模事業所を訪問し、廃棄物に係る事業者の責務や事業系廃棄物の分別・減量等について指導を行いました。 ・優良事業者表彰制度を策定し、申請受付および審査を行いました。	・2019年度から実施する減量策を作成 ・登録更新に替わる少量排出事業者の実態調査計画を作成 ・58件 ・表彰事業を開始	C	事業系ごみの減量推進に向けて、各種方策の実施及び実施に向けた準備を進めることができました。	・減量策および実態調査については、計画通り着実に進めていきます。 ・大規模事業所の訪問指導については、5年に1度の頻度を維持していきます。 ・表彰事業については、申請件数が少ないことが課題です。申請件数が増えるようPRに力を入れていきます。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
3	収集業務体制及び委託体制の見直し	個別 計画	2020年度に実施する収集業務体制、委託体制の見直しに向けて細部の検討します。	収集業務体制及び委託体制の検討	検討	○	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度に実施する収集業務体制、委託体制見直しに関する方針を決定しました。 不燃ごみ収集検討会を立ち上げ、9月7日に第1回の会議を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、不燃ごみ収集検討会で、具体的な業務内容に関する検討を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度以降の収集業務体制、委託体制の方針を決定しました。 不燃ごみ収集検討会を立ち上げ、具体的な回収ルートをコース別に検討するとともに課題の抽出を行いました。 委託業務については、委託内容の検討と仕様書の内容の検討を行いました。 収集業務体制の変更を見込んだ上で、車両代替計画を作成しました。 	検討実施	C	2020年度以降の収集業務体制、委託体制について検討を行い、方針を決定しました。	<ul style="list-style-type: none"> 回収ルート案の試走による確認が必要です。 業務の変更に伴う組織の検討が必要です。 具体的な検討結果に合わせて、車両代替計画の精査と車両の準備が必要です。
4	交通事故防止対策の実施	—	収集作業その他の業務中の交通事故を減らすための対策を講じます。	交通事故件数	前年度比20%減 (前年度14件)	○	<ul style="list-style-type: none"> 6月28日、警視庁主催四輪運転者講習会(喜多見)に2名参加しました。 消耗していた輪止め10台分(20個)を買い替えるとともに、使用後に取り忘れることのないよう全ての輪止めに黄色の塗料を塗りました。 ドライブレコーダーの運用方法について検討し、周知しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 11月6日に実施される警視庁主催四輪運転者講習会に2名参加する予定です。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月と11月に実施された警視庁主催四輪運転者講習会に2名ずつ、計4名が参加しました。 収集車同士の接触事故を防止するため、駐車スペースにマーキングを行いました。 ドライブレコーダーの運用方法について検討し、周知しました。また、記録を長時間残すことができるようSDカードを容量の大きなものに買い替えました。 収集車運転中のヒヤリハット事例について、課内および環境資源部事業場労働安全衛生委員会においてドライブレコーダーの動画を上映し、注意喚起を行いました。 	前年度比43%減(今年度8件) (2019年1月時点)	B	講習会への参加や様々な交通事故防止対策を実施したことが職員の意識向上に繋がりが、目標値を大きく超える事故件数の削減ができました。	これまで同様の取組を進めるとともに、課独自の講習会等も検討します。

部課名	環境資源部3R推進課3R普及担当												
使命	3Rの意識を持って、ごみの減量に取り組めるよう、わかりやすい情報提供や参加しやすい仕組みを作り、市民・市民団体・事業者とともに、3Rの効果的な普及促進を図ります。 ※3Rとは、【リデュース:ごみそのものを減らす、リユース:繰り返し大切に使う、リサイクル:分別して資源にする】の3つの頭文字をとったものです。												
実行計画(年度目標)													
	年度目標設定				中間確認			年度末確認					
順位	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	ごみの減量・資源化の 推進	個別 計画	ごみの発生抑制や紙の資源化な どを推進するため、新たな事業を 展開していきます。	新規事業数	1事業	○	保健予防課との協働でアメリア店頭での食品ロスの取り組みを実施しました。 相模原市と協働し桜美林大学でアプリのダウンロードキャンペーンを実施しました。	今後も検討していきます。	保健予防課と合同でアメリア町田根岸ショッピングセンターで食品ロス削減の啓発活動を実施しました。 相模原市と合同で、桜美林大学のキャンパスや町田駅周辺でごみ分別アプリのダウンロードキャンペーンを実施しました。 食品ロス削減の啓発を目的とした新たな取り組みとして、「まちだ☆おいしい食べきり協力店」制度を創設し、12月から募集を開始しました。12月末時点で1店舗から申請がありました。	3事業	B	他部署や他市と合同・連携した啓発活動の実施や新たな制度を創設など、当初目標以上の新規事業の展開を行うことができました。	新たな事業を展開していくためにも、既存事業のより一層の精査が必要です。 啓発活動をより効率的・効果的な取り組みとするためにも、庁内他部署や他市との合同・連携を、工夫していくことが必要です。 「まちだ☆おいしい食べきり協力店」は新規の取組であり、認知度は低いいため、認知度向上を目指した周知・PR活動を積極的に実施します。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
2	生ごみ処理機器の普及促進	個別 計画	「大型生ごみ処理機貸出制度」 「生ごみ処理機など購入補助金制 度」を活用し利用者を増やします。 また、ダンボールコンポスト講習会 を開催し普及促進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 生ごみ処理 機器の新規利 用世帯数 講習会開催 	<ul style="list-style-type: none"> 大型生ごみ処理 機500世帯 家庭用生ごみ処 理機200世帯 ダンボールコンポ スト講習会8回 	△	8月末現在、大型 生ごみ処理機につ いては新規導入が ないため0世帯、 家庭用生ごみ処 理機については49 世帯です。 ダンボールコンポ スト講習会を10回 開催しました。	大型生ごみ処理 機設置場所の検 討します。また、家 庭用生ごみ処理 機のパンフレットを 販売店に配布しま す。	<p>大型生ごみ処理機の 導入については、地域 の合意形成や設置場 所の確保ができなかつ たため、設置に至りま せませんでした。</p> <p>家庭用生ごみ処理機 については、補助制度 の利用者は昨年度と ほぼ同数となりました が、目標値には達しま せませんでした。</p> <p>ダンボールコンポスト 講習会についてはコン スタントに講習会を実 施することができまし た。(市民向け12回、 学童保育クラブ向け4 回、町内会向け2回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大型生ご み処理機0 世帯 家庭用生 ごみ処理 機140世帯 ダンボー ルコンポ スト講習会 18回 	C	<p>生ごみ処理機 世帯数につい ては、目標数 に達しませ んでした。</p> <p>ダンボールコ ンポスト講習会 は、市民向け 講習会を開催 することができ たほか、当初 予定していな かった学童保 育クラブや町 内会向けの講 習会も実施す ることができ ました。</p>	<p>大型生ごみ処 理機について は、設置場所 選定や設置後 の管理などの 課題がありま す。制度自体 を知らない市 民や町内会も まだ多いの で、広報やご み減サポー ター委嘱式、 また花壇コン クール関係団 体などに周知 を図り設置に つなげていき ます。</p> <p>ダンボールコ ンポストについ ては、講習会 の指導者育成 などの検討の 必要があります。</p>

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
3	環境学習の充実	個別 計画	環境学習のメニューを増やしま す。 幼稚園、保育園、小学校出前講座 にアンケート評価を引き続き実施 します。幼稚園、保育園、小学校 出前講座では、保護者への手紙 などを通じて子育て世代への啓発 も行います。 講座内容や日程の見直しを行い、 より効率的に実施できる体制を整 えます。	・開催回数 ・アンケート評 価点数	・100回 ・85点以上	○	幼稚園、保育園へ の出前講座の内 容をベースに作成 したイベント出展 等向けの「公開ミ ニ講座」を、環境 学習のメニューに 新たに加えました。 8月末日時点で町 内会自治会5回、 小学校24回、保育 園、幼稚園32回、 学童保育クラブ15 回、公開ミニ講座5 回、計81回環境学 習を実施しました。 アンケートの評価 も平均96点と高評 価です。	前半の振り返りを行 うとともに引き続 き実施していきます。	小学校はほぼ昨年と 同数、幼稚園・保育 園、学童保育クラブは 新規申し込みがあり実 施回数は増えました。 (保育園・幼稚園出前 講座62回 学童保育ク ラブ出前講座17回 小 学校出前講座33回) 秋への申し込みを誘 導し、保育園・幼稚園 出前講座では、予備 日を廃止したことで昨 年度に比べ、効率的 に実施できる体制を作 れました。 イベントでは可能な限 り公開講座を開催(6 回)し、3Rの意味や業 務内容などを伝えるこ とができました。2月 には子どもセンターま あちにて親子対象の公 開講座を実施し、保護 者に向けても啓発でき ました。 また、保育園の保育 士、幼稚園・小学校の 教諭(小学校は4年生 担当)を対象にしたア ンケートについても高 評価でした。	・118回 ・97.7点	B	・保育園・幼稚 園、学童保育 クラブへの出 前講座は、PR を充実させた ことや各園間 やクラブ間で の情報共有も あり、回数を増 やすことができ ました。 ・親子対象の 公開講座は今 年度初めての 取組であり、実 際にごみ減量 に取り組んで もらいたい保 護者に啓発す るよい機会とな りました。	・中学校では、 周知不足に加 え、対象年齢 など決めきれ ていないこと もあり、申し込 みがありません でした。中学生 をターゲットに するのであれ ば、学校側の ニーズを把握 し、講座だけ ではなく資料 などのアプ ローチの方法 を考える必要 があります。 ・今後も引き続 き親子向けの 公開講座を実 施していくこ とができるよう 関係者と調整 をしていく必要 があります。
4	情報発信の拡充	個別 計画	ごみ分別アプリのダウンロード促進 を目指し、大学、不動産業者との 連携を強化します。ごみ分別アプ リのプッシュ通知やメール配信 サービスやSNSなどを活用し、世 代・地域などターゲットを明確にし た情報配信を行います。	・アプリダウ ンロード数 ・メール配信 サービス登録 数 ※累計	・5,000ダウンロー ド ・3,300人	○	アプリのダウンロー ド数は、8月末時 点で合計8,418回 です。 メール配信登録者 数3,807人です。	・引き続きダウ ンロード促進に取り 組みます。 ・引き続き情報配 信を行います。	ごみ分別アプリのダウ ンロード数は、11月末 時点で、合計10,352回 です。 メール配信登録者数 は、目標を大きく上回 りました。 6月に桜美林大学でダ ウンロードキャンペ ーンを実施したほか、町 田商工会議所不動産 業部会と調整を行いま した。	・11,156ダ ウンロード ・4,038人	B	ごみ分別アプ リのダウンロー ド件数とメール 配信サービスの 登録者を増 やすため、イ ベントPRや広 報メディアなど を通じた周知 ・PRを継続的 に実施しま す。	

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
5	情報紙の発行や情報 発信の充実による市 民団体の取り組みの 促進	個別 計画	3R意識を普及する情報紙(ごみナクナーレ)を発行し、良い取り組みを紹介し、3Rマップの配布場所、配布数を拡大します。	・発行回数(ごみナクナーレ) ・配布数(3Rマップ) ・紙面で紹介した団体数	・2回 ・10,000部 ・4団体	○	8月15日にごみナクナーレを発行し、2団体の取り組みを紹介しました。3Rマップについては、ごみ減量サポーター委嘱式で配布するとともに活動紹介のテキストとして使用しました。また、小学校、町内会自治会、イベントなどで配布しています。8月末日までの配布数は約6000部です。	2月にごみナクナーレ2回目を発行し、ごみ減量に取り組んでいる団体を紹介し、3Rマップも引き続き配布していきます。	情報紙「ごみナクナーレ」では幅広い年代の方に取材をし、読んでいただく方の年齢層も広がるよう企画しました。紙面で紹介した団体は、各号とも2団体でした。3Rマップを小学校の出前講座や各イベントで配布するほか、町内会・自治会等出前講座のテキストとしても活用しました。(出前講座、イベントで各5,000部)	・2回 ・10,000部 ・4団体	C	ごみナクナーレは目標どおり2回発行し、紙面で4団体紹介しました。3Rマップを目標どおり10,000部配布しました。	情報収集が十分にできていないため、最新の情報を提供できるように外部団体との連携を広げて、情報収集を効果的にする必要があります。3Rマップはまだ手にとったことのない人に配布する必要があります。
6	イベントやキャンペーンにおける3R普及PRの促進	個別 計画	市内で行われる様々なイベントを活用し、また各種キャンペーン等を行うことで3R意識の普及促進を図ります。	・イベント回数 ・キャンペーン回数	・20回 ・20回	○	・8月末現在、イベントに14回参加し、啓発を行いました。 ・ごみ袋サイズダウンキャンペーン6回、水切りキャンペーン5回、マイボトルキャンペーン2回、合計13回の啓発キャンペーンを実施しました。	・前半の振り返りを行い、引き続きイベントに参加し啓発を行います。 ・9～10月に水切りキャンペーン、11月と2月にサイズダウンキャンペーンを実施します。 ・マイボトルキャンペーンは、11月～3月の期間で3回実施します。	イベントでは、新たに子どもセンターや町内会のイベントへの出展や、相模原市と協働キャンペーンを行いました。今年度は、合計45回の啓発キャンペーンを実施しました。(ごみ袋サイズダウンキャンペーン18回、水切りキャンペーン10回、マイボトルキャンペーン5回、子どもリユース品回収会・配布会10回、3R広場・イベントスタジオ2回)	・25回 ・45回	C	・前年度の出展実績があるイベントに加え、新たなイベントにも参加することで、目標の回数を上回りました。 ・今年度から水切りキャンペーンを子どもセンターで実施するなど、新たな対応により、啓発キャンペーンの回数が大きく伸びています。	ターゲットや地域、出展内容に偏りがあるため、次年度も引き続き、開催場所や内容の見直しなどを行い、イベント及び啓発キャンペーンの質の改善を目指します。

順位	年度目標設定				中間確認			年度末確認					
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
7	市民団体、事業者との3Rの推進	個別 計画	市民団体、事業者の3R普及促進に向けた取り組みの支援をします。	新規協定・連携団体数	2団体	○	学童保育クラブ1か所、町内会1か所では行われた親子イベントの支援をしました。	後半についても団体の3R普及促進の取り組みを積極的に把握し、支援していきます。	出前講座等により今まで関係を築いてきた学童保育クラブ1か所と地域団体1か所が、自主的に親子を対象としたごみ減量のための新たなイベントを企画・実施しました。市は学習パートを受け持つ形で関わり、実施の支援を行いました。また、ごみ減量サポーターを通じた働きかけにより、新たに地域団体5か所が、地域のごみ減量のための集会を企画・実施することになり、市は講師として携わりました。	7団体	B	学童保育クラブのイベントは100人以上の親子に参加していただき、子育て中の方に直接啓発できるよい機会となりました。また、目標値を大きく上回る新たな地域団体の支援をすることができました。	新規団体の支援については、ごみ減量サポーターを通じての周知にとどまらず、他の手段も考えていく必要があります。また、これまで各団体と良い関係を築いてきた結果が、今年度の活動につながったため、取り組みの支援について、引き続きPRしていく必要があります。
8	業務知識の向上と情報の共有	—	情報発信能力や各種PRに必要な能力の向上を図るため、独自研修を実施します。係の事業概要や会議等を活用し、各事業の情報(取組項目の進捗状況や成果など)を係内で共有します。	実施回数	2回	△	今年度はまだ実施していません。	実施に向けて検討します。	エコプロダクツ2018を視察し、ごみや環境について情報収集を行い、職員間で情報共有しました。リサイクルについての勉強会を行いました。	2回	C	目標値を達成しました。勉強会などを実施することで、職員のスキルアップを図りました。	年々変化している市民ニーズに対して常に情報収集を行い、職員のスキルアップのために研修や勉強会を実施する必要があります。